

定住・移住対策について
教育行政について
レストハウスについて



松尾 実議員

問 定住・移住を推進する事も大事であるが、まずは地元に残る方々に結婚支援をするべきではないか。それが地域の活性化につながるが、このま

までは、単身高齢者が増え、福祉医療費の加算となり、大変厳しい環境下となってしまいがいかか。
答 【市民福祉部長】単身高齢者が増えることは、今後、介護・医療の観点からも大きな問題である。よって結婚支援も重要であると思う。

問 提案であるが、一人暮らしのワンルームマンションを建設して若い世代の定住・移住を図るべきではないか。それが商店街の活性化にもつながると思う。
答 【建設部長】県からは、市内にある県の職員住宅や教員住宅、警察官舎が使われずに多数空いているので、それを譲り受けて若者向け、新婚世帯向けに提供する事で新たな建設費用をかけずに低額で有効利用ができ、併せて定住・移住の促進ができると思うがいかがか。
問 【建設部長】県からは、市への提供は困難である

と回答を得ているが、譲り受けができるよう継続して要望する。
問 学校教育の中で、近年、体の不自由な児童が多くなってきたり、児童が安心して就学できる環境であるのか。
答 【教育長】重度の障害の場合でも就学ができない状況ではない。
問 市内には対象の児童・生徒が10人ほどいるとのことであるが、今後、重度の障害のある子どもや家族の方々が安心して暮らせる環境づくりが住みよいまちづくりの観点からも必要で

ではないか。
答 【市民福祉部長】新年度予算に向けて、交通費などの支援ができるようにしていく。
問 レストハウスにエレベーターを設置するとの事であるが、その前に平戸城の入館者減少や観光客の高齢化を考えると、先に平戸城に設置すべきではないか。
答 【文化観光部長】本市を代表する観光施設であるから、検討したい。

えられないか。
答 【文化観光部長】新たな個人型観光客の誘客を図るため、旅行会社と連携している。世界遺産については、イコモス調査対応等を行ってきた。また、啓発活動のパンフレットや受け入れのためのサイン計画の策定等を行なっている。
問 【市長】フェリー太古に協力をいただきたい。

平戸市総合戦略について
地域コミュニティの進捗について
観光行政について



神田 全記議員

問 平戸市総合戦略については、市政懇談会などで、市民からさまざまな意見が出ていると思うが、市長の今後の考え方について問う。

答 【市長】国が示した「まち・ひと・しごと創生法」の制定に伴い、地方版総合戦略を策定することとなった。今後5年間の基本的施策を策定するため、パブリックコメントを実施し、3月議会で報告する。
問 TPPを契機とした本市農業施策の展開は。またICT技術の導入によって生産

基盤の強化を求めたい。これに伴う光回線の整備方針はどうなっているか。
答 【産業振興部長】TPPについては、農政新時代と位置付け、ささ思い切った農業施策を展開する。また、ICT導入については他自治体の取り組み結果を精査し、平戸でできることをやる。
問 【総務部長】光回線の整備は、北部・田平・生月地区に進めており、未整備地区(川内・中部・南部・度島・大島地区)についても、平成29年度までには整備

できるよう努力する。
問 各地区の地域コミュニティの進捗状況はどうか。
答 【総務部長】度島をはじめ、各地区順調に進んでいる。今後は平成28年度に中部地区、平成29年度に北部地区で説明を行なっていくが、地域の自主性を重んじ、行政の押し付けとならないよう推進していく。
問 観光行政について、宿泊客数を伸ばすことは重要であり、世界遺産登録を目前に、平戸と五島を結ぶためにも、フェリー太古の平戸への寄港は考

えられないか。
答 【文化観光部長】新たな個人型観光客の誘客を図るため、旅行会社と連携している。世界遺産については、イコモス調査対応等を行なってきた。また、啓発活動のパンフレットや受け入れのためのサイン計画の策定等を行なっている。
問 【市長】フェリー太古に協力をいただきたい。

イノシシ被害対策について
ふるさと納税の使い道について
福祉行政について



山田 能新議員

問 最近イノシシの被害が目立つようになった。平成27年度の被害状況と捕獲状況はどのようなものか、また、今後の対策について尋ねる。

答 【産業振興部長】平成27年10月末現在の集計で、被害面積13・77ヘクタール、被害額は1千541万円、前年同期と比較すると約2・5ヘクタール、200万円増となっている。このまま推移すると、前年度より15%程被害額が多くなる見込みである。捕獲状況は、2千353頭が捕獲されており、約4千500頭捕獲した前年度

と比較すると約30%の増で捕獲が進んでおり、このままいくと約5千600頭の捕獲となる見込みである。
問 次に捕獲隊の設置については、全国に先駆けて実施をしてきており、猟銃免許取得者をリーダーとして、免許を持たない補助メンバー数名で捕獲隊を結成しており、現在28チームによる活動で大きな成果を上げている。
問 ふるさと納税を使った公園や道路(世界遺産関連の道路を含む)の陰切り等の予算はつけられないのか。また、

市政懇談会や地区の要望では、陰切り等の要望が多く出ているようだがその対応はどのようにするのか尋ねる。
答 【財務部長】市政懇談会の中でも陰切り等の環境整備について質問がよく出てくるので、今後は予算措置をしていかなければならないと思う。
問 【建設部長】新年度の予算については、世界遺産登録に向け想定される周遊道路や平戸城の景観を確保するための亀岡公園の立ち木伐採をはじめ、各公園の陰切りも含めて、本年度と比較

し、増額して要望している。
問 平戸市民がこれからの高齢化社会の中で介護保険料などはより安く、サービスはより多く受けたいが、介護予防日常生活支援総合事業の進捗状況はどのようになっているのか尋ねる。
答 【市長】この総合事業への移行は平成27年4月1日とされているが、経過措置により平成29年度まで猶予することができる。その間時間をかけて事業者との協議や事業内容の検討を行なっていく。

市議会をないがしろにするレストハウス改修
医療費の助成、障害者・小中学生・高校生
小さいこみ袋、「平成29年度から実施したい」



山崎 一洋議員

問 国が社会保障を削減する中、自治体は、本来の仕事、住民の暮らしを守ることに力を入れるべき。税金は、箱物や道路より暮らし応援に使うべ

答 【市長】災害が発生し、番組枠が空いたので放送した。本来なら議会の承認を受けた上での放送だが、議会制の

否定にはならない。
問 改修の予算案は、平成28年3月市議会への提出でいいか。また、市が全額負担と聞く。財源は合併特例債、つまり銀行からの借金と聞くが。
答 【文化観光部長】はい。
問 費用対効果の計算は。
答 【文化観光部長】行なっていない。
問 障害者から暮らしが大変、医療費を小中学生と同様に助成して、この声が寄せられ

た。年2千600万円が可能だが。
答 【市民福祉部長】必要性を今後検討しながら、対応したい。
問 松浦市では高校生まで医療費を助成、年250万円。平戸市の予算は年280億円。
答 【市民福祉部長】考えていない。
問 医療費の助成、就学前の子どもは現物支給、小中学生は償還払い。大村市では市

内の病院にかかった時は、小中学生も現物支給。
答 【市民福祉部長】十分検討する。
問 私は平成25年9月市議会でも必要と求めた。難しいとの説明があった。
答 【市民福祉部長】大・中・小の袋でテスト中。市全体では早く平成29年度から実施したい。